

2024/4/15

## INIT 国民発議プロジェクトのセミナーに参加して

谷 誠

2024年4月14日に京都で、表記のセミナーがあり、参加しました。このセミナーは、INITという、国民発議・国民投票の制度化をめざす、ジャーナリストの今井一さんが推進しているプロジェクトによって開かれたものです。民主主義が機能するには、候補者を選ぶ選挙だけで主権者である国民が発案権や拒否権が行使できるようにしてゆくことが必要だとの考えに基づいています（詳しくは、<https://init-jp.info/> 参照）。

昨日の議論で重要なポイントのひとつは、日本では、「どういうわけか」、社会の問題と将来の方向性に関する情報公開の制限や議論による問題点の深化の阻止という構造が定着していますが、大阪都構想の住民投票による2度の否定の事例から、住民発議・投票はその構造を切り崩すきっかけになり得るということであつたと、受け止めました。

参加されていた福山和人さんご指摘の公職選挙法の欠陥は、まさにその構造が明確化されたもので、昔は、セスナ機で投票日に投票が呼びかけられていたなあ、今はそういう呼びかけすらないなあ、ということを感じました。

私は、拙著「矛盾の水害対策」執筆中に、江戸時代にはこうした無関心構造はあり得なかつたことに気づき、最近になって、「里山循環モデル」を提唱することにしました。

<https://hakulan.com/wp/wp-content/uploads/2024/03/Consensus.pdf>

つまり、当時は支配者であつた幕府・領主、経済活動の基盤を支えていた農民、いずれも、「食料や生活資材全般が、里山から持ち出される生物資源の利用に依存している」こと、「その利用が拡大することを切に望むにもかかわらず、そうした場合、生態系のレジリエンス（回復力）が維持できない限界点越えが起これ、経済が破綻する恐れがある」こと、これらの認識を経験的に共有していたのです。実際、疎林、草山、植生と土壌がともに失われたはげ山が広がっていたので、破綻の危機感が具体的に共有できだのです。

結果的に、この里山循環モデルのプレイヤーである、領主、川の上流や下流に分散して暮らす農民、下流の都市の住民、これらは訴訟によって相互に対立しながら、里山循環モデルが存続できるような落としどころを探す（完全には満足できないが妥協点を見つける）ことで、何とかぎりぎりの定常性が保たれる社会が成立していました。

ところが明治期以降、資本主義経済の発展が国の権力者の目的となつたことから、里山循環モデルは意識されにくくなり、どこまでも経済を発展させても、生物資源が枯渇することはないとの幻想が生まれました。定常性から非定常な発展経済の時代に移行したのです。

公害や地球環境の問題は、この非定常性経済の幻想を破る意味を持っているのですが、現

在のプレイヤーは幻想性を共有できず、権力者も庶民も、非定常な経済発展が続くことを漠然と期待しています。

ここで重要な問題は、にもかかわらず、里山循環モデルに代わり得る地球規模の新しい定常モデルが成立できていないことです。定常性モデルは、人間が動物の一種である以上、生きるために必須となる食料の生産と排せつ物・廃棄物の分解を生態系に依存する構造から逃れられません。この構造が定常性を保つことは、江戸時代と同様、現在も、将来も、歴史貫通的に不変なのです。

こう考えると、権力者が情報を隠し議論を阻止しているのは、庶民がこの歴史貫通的な定常性モデルに気づかず、経済発展幻想を持ち続けてくれることの現れであることによるのだと私は思います。

つまり、庶民が、有名人にあこがれたり、スキャンダルを非難したり、自分が直接巻き込まれないような事柄に執心することが望ましいこととなります。沖縄の基地の問題は、本土の庶民に後ろめたさを感じさせますし、自民党の裏金問題はけしからんと思うのですが、直接には関係しないとして傍観してしまい、みずからつながる政策の選択とは別問題だという意識がはたらくので、仮に政権交代が起きたとしてさえ、自民党や類似の政党の支配構造は維持される可能性が高いと思います。

したがって、江戸時代の人々が生物資源の限界点越えがみずからの経済生活を破綻させるとの危機感を共有していたように、現代もまた、さまざまな社会問題とそれに対応する政策が自己の経済生活に密接につながっているがことを「痛感する」ことが必要です。原発でもダムでも基地でも、当事者になってしまえば、個々の人間が自らのレジリエンスに基づいて賛成反対を慎重に判断することから考えても、国民を傍観者から当事者へ引きずり込むことは決定的に重要だと思います。

1945年の敗戦はそのきっかけとなったはずなのですが、経済発展幻想が強烈であり、地球環境問題や原発事故などによって限界点越えの危機が明瞭になってきてさえ、その幻想が惰性として続いています。

セミナーの議論とこれまでに考えてきた点から、私は、個々の政策に関する国民投票は、当事者への引きずり込みの効果が大きいものと結論づけたいと思います。